

図書館だより

HGU Library

library.hgu.jp

vol.228

April 2023

趣味のすすめ

花言葉は一つしか知らない

工学部生命工学科准教授 新沼 協

スキーを始めた話

工学部建築学科教授 熊坂 亮

趣味が仕事になる人生

経済学部地域経済学科講師 藤田 知也

本のおかわり

『ボクサー』 作：ハサン・ムーサヴィー、訳：愛甲 恵子

『ま、いっか!』 作：サトシン、絵：ドーリー



花言葉は一つしか知らない

工学部生命工学科准教授

新沼 協



NIINUMA Kanae
筑波大学大学院生命環境科学研究科博士後期課程修了。博士（理学）（筑波大学）。専門は植物分子生物学。研究テーマは、植物における概日時計と器官サイズの制御機構に関する研究。

緑の手、とは植物を育てるのが上手な人のことをさす言葉らしいが、私の手は残念ながらそれではない。私は植物学が専門なので、植物を育てる機会はとも多いのだけれど、実験用のシロイヌナズナ以外は、いくら頑張ってもゼミの4年生の方が育てるのがうまいくらいだ。

緑の手を持たない私であるが、植物のことはとても愛していて、研究対象でもあり趣味でもある。なので、たぶん定年退職しても、家で下手くそながら植物を育てたり研究したりすると思う。私が植物の研究を職業にしていると聞くと、「優しそう」「ロマンチックそう」とかいふ誤解をする人がたまにいるが、私が植物を好きなのは淡くてかっこいいからである。

淡くてかっこいい植物

多くの植物は、いちど種から芽を出してしまふと移動することができない。このことは、動物が移動してエサを獲りに行ったり雨宿りをしたりできることと比べると生存在に不利に思えるが、違う角度から考えると、植物は「移

動しなくても生きられる」能力を持っていることになる。いや、生物はいずれもそれぞれ独自の生存戦略を取っていてどれもかっこいいのだが、私にとっては、目立たず背景に溶け込んで静かにしているように見える植物が、実は移動できなくても生き残れる巧妙なメカニズムを持っているという、そのギャップが魅力的だと思っている。植物は非常に多様な形や色をしており人間の目を楽しませてくれるが、それは園芸品種を除き、基本的には植物が生存するため



切花で買ってきた遺伝子組換の青いバラ、アプローズ

の戦略に繋がっている。その上、光合成を行って酸素を生み出したり、食物連鎖の基盤を築いたりと大活躍の実力者であるところもとても良い。

このように、私は植物のかっこいいところが好きである。私がロマンチックで優しいから植物を愛しているわけではないことは、花言葉を全く知らないことからわかってもらえると思う。

知っている唯一の花言葉

いや、花言葉の中で一つだけ知っているものがある。青いバラの花言葉、「不可能」である。バラの栽培の歴史は古く紀元前500年ころの記録が残っているが、青いバラはギリシャ神話やアラビアンナイトでも「存在しないもの」の象徴として描かれている。人類の長い歴史の中で青いバラは存在しないのが当たり前であり、その作出は長い間バラ育種家の夢であった。

この不可能の代名詞である青いバラに、遺伝子組換えを武器に取り組んだのがサントリーの

おすすめの本



『星の王子さま』
サン＝テグジュペリ 作
内藤 濯 訳
(岩波書店 2017年)

研究チームである。バラではそもそも青色色素デルフィニジンを合成する遺伝子が機能していないことがわかっていたので、青い花をつける他の植物種からデルフィニジン合成遺伝子を取りだしてバラに遺伝子組換えを行うことにした。こうして約20年の歳月と30億円余りの費用を費やし、とうとう2004年に青色のバラ品種「アプローズ（喝采の意）」が発表された。長年「不可能」であった青いバラの花言葉に、「夢かなう」が加えられた。

私が初めてこのアプローズを見たのは、日本の遺伝子組換え界のビッグボスであった恩師の、パーティーで贈呈された花束だった。パーティーに参加していた植物分野の研究者や学生が、みんな「これがあの噂の！」と花束のまわりに集まったのを覚えている。このアプローズの花色は、個人的な印象としては青色よりもどちらかというと紫に近い。が、青色のバラの作出の難

育種家の夢は終わらない

ある意味、育種家の夢を遺伝子組換え技術が横取りしてしまったようにも見えるが、実は通常の交配によるいわゆる「青系」のバラは以前から存在する。ただし、青系のバラといってもその多くは青にやや近い紫やベージュのような花色のものが多い。私が個人的に一番青いと思っている品種の一つが1992年に園芸家の小林森治氏によって作出された「青龍」である。このバラは、デルフィニジンとは別の青色色素ロザシアニンを蓄積していることがわかっていて、さらに、2020年に木村卓功氏が作出した品種「ブルージュピティ」もかなり青い。

我が家の庭には現在、この青龍とブルージュピティを含めた4つの青いバラが植えてある。



木村氏作出のブルージュピティ

しさを聞いているので、たしかに青色の色素が入っているという感動があった。

庭の4つのバラを、「うん青い。カッコいいなあ」と言いながら眺めている。どの品種も赤色素の量がかなり少ない印象で、ブルージュレーの花弁をしている。入手した時には、植物分野に携わっているだけの私でもとても感動したので、実際に青いバラの作出に携わった小林氏、木村氏や、サントリーの研究チームの、完成した時の喜びはいかばかりであっただろうか。サン＝テグジュペリ著『星の王子さま』の中の、「きみのバラをかがえないものにしたのは、きみが、バラのために費やした時間だったんだ」という言葉を思い出す。私も、自分自身のかがえないバラにあたるものを見つけられたらと思っている。

おわりに

私が気にかかっているのは、青色の花弁を持たされたバラは困っていないだろうか、ということである。植物の形や色は、基本的には何らかの生存戦略に繋がっていると最初に書いたが、そもそも青いバラが長い間存在しなかった理由は、バラにとって青色の花びらが自然界での生き残り戦略の中で役に立たないからではないのだろうか（実際には、前述の青いバラは園芸品種であり手厚く人間が世話しているので、生存には困らないだろうが）。バラがもつ青色の意味を、庭のバラを見ながらじっくり考えるためにも、なんとか緑の手を持ちたいものである。

スキーを始めた話

工学部建築学科教授 熊坂亮



KUMASAKA Ryo
北海道大学大学院文学研究科言語文学
専攻博士後期課程単位修得退学。博士
(文学) (北海道大学)。専門はドイツ
語学。研究テーマは、ドイツ語のスイ
ス方言、スイスの言語政策。

俺のスキーブームが再来、である。

きっかけは長女の小学校入学。冬になるとスキー学習が始まるのだ。用具一式だけでなく、基本的なことを事前に習得させることも必要になる。モノが揃ったらどこかに習いに行かせるというのも一つの選択肢だ。しかし子供用のスキーを選んでいるうちに、やりたくなってくるのである。自分も。こうして、実に約30年ぶりにスキーを始めることとなった。

まずは道具選び。昔とは板の形状が異なっており、技術も変化していると聞く。ここでご教示を乞うのがYouTubeである。ターンの仕方や練習方法、道具の選び方やメンテナンスの方法、さらには子供への教え方まで。便利な世の中になった。とはいえスポーツ用品店の品揃えは非常に豊富で、結局は店員の方に丸投げとなった。小物も諸々買い揃え、準備は整った。

2022年末某日、最寄りのスキー場へ。自分で買った車とスキーをひっさげているのが、あの頃とは違っている。目的地に着いた。実はちよっと困惑している。まずどうしたらよいか

の記憶がないのである。駐車場からスキーを履いてよいのだったか。スキーはだめか。スキー靴はいいのか。そんなレベルである。十数分もたついたので、リフト券を買ってスキーを装着。さてリフト乗り場だが、無事に乗車位置に立てるのか。不安が募る。ところが意外と体は覚えていたようで、難なく頂上へ。懐かしさも感じないどころか、毎年来ていたかのような心持ちなのは不思議だ。

体が覚えていないのが、滑走である。いや、技術が昔とは違うのだから、元々覚えてはいない。スキーに関するカタカナ言葉にはドイツ語に由来するものが多くみられます、などと日頃語っていても、そんな情報はここでは全くの無力である。行き先は初級コース一択。それでも当然のことながら大苦戦である。YouTubeでの予習にも限界があるようだ。足腰が痛くなってきたところで、この日は退散。帰宅すると家の階段すら上り下り困難な筋肉痛が待っていた。

ちなみにスキーを再開するにあたっては、近

場のスキー場を満遍なく回るという裏テーマを設けた。全くの初心者である小1女子を連れて行きやすいかどうかの偵察だ。リフトやコース、駐車場、トイレ、食事などがチェックポイントである。

さてまた別の日。この時点ではすでに何度か出掛けており、感覚を取り戻した気にはなっている。今度は中級コースに挑戦。だが出るスピードは目測以上でなかなか怖い。ここで大怪我でもしようものなら周りにいろいろ影響が出るだろうな、などと考えてしまうものだから余計に怖い。これもあの頃とは違っている。これだと上級コースには程遠い。まあ元々そこまでのレベルではないので、これはあの頃と同じである。

そしてまた別の日、初めて娘を連れてスキー場へ。選んだのは結果的に、私が子供の頃よく父に連れられて行った場所だった。初心者向けのなだらかな長距離コースを滑りながら、当時の記憶を辿る。とても微笑ましい。子育てには子供時代の追体験とか、思い出の伝承といった側面もあると思う。その一端を垣間見たような

おすすめの本



『現代用語の基礎知識
カタカナ外来語 ABC 略語辞典
(第6版)』

堀内 克明 監修
(自由国民社 2021 年)



『【新装版】

世界の建築・街並みガイド④
ドイツ・スイス・オランダ・ベルギー

(エクスナレッジ 2012 年)



『スイス悠遊』

末安 正博文 / 末安 潤子 写真
(成隆出版 2007 年)

気がした。今回は父も連れて行くのもいいかもしれない。
そんな私も訪れてみたいスキーリゾートがある。スイスのイタリア語地域の小さな村、ボスコ・グリーン (Bosco Gurin)。標高 1,506 m で、温暖なティチーノ州の大部分とは違って冬は寒さが厳しく雪深い。人口は 2020 年末現在で 52 人。開村は諸説あるが 1253 年とされる。
20 世紀初頭までは周囲から隔絶された「秘境」であった。今日では交通機関でのアクセスとして、ロカルノ (Locarno) からバスで麓の町チエヴィオ (Civio) まで行き、ボスコ・グリーン行きのバスに乗り換えるルートが一般的であるが、この車道が開通したのは 1928 年のことだ。そうした環境で、伝統的に雌牛などの牧畜やジャガイモなどの畑作、籠編みなどの手工業が営まれてきた。

そうした中 1970 年頃、山にリフトが敷設された。観光業の始まりである。冬には牧草地がスキー場へと変わるのだ。2000 年以降は宿泊施設もいくつか建設された。空き家を貸別荘として活用する取り組みも始まった。こうした秘境ボスコ・グリーンは冬のリゾート地として



ボスコ・グリンの中心部

活気を取り戻したのである。
この地はドイツ語研究の上でも重要である。実は、村を作ったのはスイス南部のドイツ語地域からの移住者。つまり、住民は伝統的にドイツ語話者で、イタリア語圏の中に小さなドイツ語圏が形成されたというわけである。
ボスコ・グリンのドイツ語方言 (Günnerdeutsch) には、入植当時のドイツ語の要素が現在まで多く保たれているという特徴がある。たとえば現代の標準ドイツ語よりも複雑な、名詞や動詞の語形変化。標準ドイツ語との差異が大きいスイスの諸方言の中でも、それが特に顕著である。他の方言との差異も非常に大きい。
現在、この方言が危機に瀕している。住民が州の公用語であるイタリア語しか話さなくなっているのだそう。伝統的にはドイツ語とイタリア語の両方が使用されていたが、現在では若年層を中心にドイツ語離れが起きているとのことである。
2006 年夏、スイスでの留学を終えて帰国する 3 日ほど前にこの場所を訪れた。いつか冬にも訪れてみたいと思う。大怪我に注意しながら。

趣味が仕事になる人生

経済学部地域経済学科講師

藤田 知也



FUJITA Tomoya
大阪市立大学大学院創造都市研究科
博士（後期）課程修了。博士（創造都
市）（大阪市立大学）。専門は交通経済
学。研究テーマは、観光列車が沿線地
域と鉄道事業者にもたらす効果に関す
る研究。

「観光列車」の研究

「交通経済学」と聞いてもピンとこない方が多いのではないかと思います。読んで字のごとく、経済学（中でもミクロ経済学）の視点から交通分野を考察するのが「交通経済学」です。ちなみに私は観光列車を対象とした研究をしています。正直、交通経済学の王道からはかなりかけ離れています。交通経済学と地域経済学と観光経済学を融合させたような分野と言えはいいでしょうか。

趣味がきっかけで…

私は幼いころから鉄道が好きで、幼少期は「大きくなったら車掌さんになりたい!!」と思っていました。男性ならば幼少期は鉄道に興味を持つ方も多いのではないかと思います。多くの方はいざ興味がから外れていくのではないのでしょうか。しかし、私は鉄道への興味が常に持続してきました。大学生になります。私は関西大学経済学部に入学しましたが、理由は「経済を学びたいから!」なんて真面目な理由では全くなく、「何となく世の中が分かって就活の時に役立つかも。潰しがき



写真は愛媛の観光列車、「伊予灘ものがたり」

そう」という実に消極的な理由でした。

大学生になると、しょっちゅう旅行（というか乗り鉄）をしました。この時に、JR九州が新たに導入した観光列車に数多く出会うことになりました。私自身、地域経済学のゼミに入っていたこともあり、JR九州の観光列車の取り組みを見て、地域活性化に観光列車はかなり有用なのでは?と思うようになりました。当時、JR北海道でも流氷ノロッコ号やSL冬の湿原号などの観光列車が走っていたので、大学時代は毎年乗りに来ましたが（加えて北海道という地域も凄く気に入っていました）、JR九州の取り組みを見たいこともあり、北海道でも観光列車を地域活性化に繋がられるんじゃないかと思ったりしていました。

そして、大学生活における一大イベントである就活を始めることとなります。大学に入るまでは、鉄道が好きだし鉄道会社に行きたいというような感じでしたが、大学生活で「観光列車で地域を盛り上げるような仕事したい!」と明確な目的ができたこともあり、就活では鉄道会社の総合職を

おすすめの本



『JR時刻表』
(交通新聞社 2023年)

中心にエントリーし、JR北海道から内定をもらいました。その後、鉄道と地域活性化に関する卒論を書き、ここで研究の面白さに目覚めますが、鉄道会社から内定をもらっているわけですから、当然就職します。

就職後、最初は車掌の仕事をしました。幼少期の夢を叶えることができたわけです。もしかしたら、これを読んでいる方の中に、私の乗務列車に乗ったことがある方もいるかもしれませんね。しかし、当時の会社はかなり大変な状況で、将来的に観光列車の仕事ができるかどうか分からないなあ…と入社後には考えていました。研究の面白さを感じていたことから、その立場から観光列車と地域活性化に寄与していきたいと思い、会社を辞める決心をし(他にも細かい理由は色々ありますが…)、大学院に進学します。大学院で勉強・研究を進め、2020年に本学に着任しました。北海道とは不思議と縁があります。

鉄道とそれ以外の趣味について

鉄道尽くしの私の人生ですが、今もなお乗り鉄は趣味の一番手です。ただ私の場合は趣味と仕事(研究)の境界線が極めて曖昧なので、純粋な趣味というわけではなくなっているかもしれません。学術的視点を持ち乗り鉄をするのも非常に楽しいものです。また、自宅に鉄道模型のレイアウトを広げていますが、いずれはジオラマにしたいなと思っています。

他の趣味は音楽鑑賞。サブスクも使ってますし、のんびりしたいときはレコードで音楽を聴きます。1991年生まれなのでレコード世代ではないですが、アナログの雰囲気や、一枚のアルバムを通して聴くからこそ分かる良さ(昨今のサブスクを中心とした音楽配信モデルとは真逆ですね)があります。ちなみに好きなアーティストは中島みゆきさん(一番好きで、コンサート・夜会に計8回行っていきます)、安全地帯・玉置浩二さん、村下孝蔵さんなど。明らかに私よりも上の世代で、全般的に昭和の曲が結構好きです。サブスクで色



『定刻発車—日本の鉄道はなぜ世界で最も正確なのか?—』
三戸 祐子 著
(新潮社 2005年)

んな昔の曲を聴いたりもしていますが、最近には小椋佳さんや来生たかおさん作曲の曲が非常に琴線に触れるなあと感じています(学生の方には伝わらないか…)。

私の昭和好きは他にも表れていて、鉄道においても国鉄型が好きというのがありますが、昭和の仮面ライダーも好きでよく見ます。逆に平成ライダーはほとんど分かりません。昭和ライダーの中でも初代(1号・2号)とV3が特に好きなのですが、ショッカーなどの悪の秘密結社が何故その作戦に失敗したのか、その分水嶺はどこだったのかを考察しながら見るといって、研究者らしい(?)楽しみ方をしています。

私の場合は、趣味が就活の軸となり、卒論のテーマとなり、会社を辞め、研究者を目指すきっかけになりました。大学時代は使える時間が多くあるので、趣味を極めるのは今のうちとも言えます。趣味は皆さんの人生を大きく変えるかもしれません。本当に人生って不思議なものです。



『都市鉄道の技術社会史』
高嶋修一 著
(山川出版社 2019年)



本のおかわり

文 = 前田 将司 図書館職員



作：ハサン・ムーサヴィー
訳：愛甲 恵子

『ボクサー』

(トップスタジオ HR 2021年)



作：サトシン
絵：ドーリー

『ま、いっか!』

(えほんの杜 2015年)

絵本の売り上げが増加しているニュースを見た。昨今の情勢による巣こもり需要のほか、親が思い出の絵本を自分の子どもに買ったり、祖父母がプレゼントしたりする流れが売り上げを支えているようだ。なるほど。絵本の思い出といえば、『じくこのそうべえ』とか絵のタッチが怖くて読めなかったな。たまたま見た絵本専門店のドキュメンタリーでも絵本市場が活発となっている同様の話があった。以前、図書館だより217号(図書館HPでバックナンバーを閲覧できます!)でも札幌にある「ちいさなえほんや ひだまり」を取り上げさせていただいたが、どうやら絵本業界の熱はより高くなってきているらしい。ちょうど本のおかわりを探していたし、久しぶりに触れてみようとしてネットの絵本ランキングやレビューを徘徊したのち、白石区複合庁舎にある「えほん図書館」に潜入してみた。たくさんの親子で賑わうなか、ひとまず、「おっ」と思ったジャケッットや目を惹いたタイトルを、中古レコードを漁るかのようにビックアップした(レコード漁ったことないけど)。久しぶりの絵本は今だからこそ気付く絵の細かさや戒めが含まれており、なにより、サクサク読めて楽しいのでスッキリと脳疲労が取れた気がした。後日、手元に置いておきたいと思った2冊の絵本を購入したので紹介させていただきます。

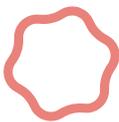
『ボクサー』

イランの作家による、世界最大規模の絵本原画コンクールでグランプリを受賞した作品の邦訳版。主人公は父さんが遺してくれたグローブで、山から海、街のものを打って、打って、打ちまくるボクサー。迫力と色彩ある絵はボクサーを躍動させ、想像力が無限に広がるような感覚になります。なぜありとあらゆるものを殴り続けるのか。詩的な文章は疲れることなく何周も読みたくなり、ゆっくりと自分のこぶしの使い方を教えてくれました。

『ま、いっか!』

いつものんびりさんのテキトーさんは、朝起きてから仕事に行くまでずっとやらかしています。それでも、「ま、いっか!」のセリフで読んでいるこちらも心配になるトラブルを強制的に着地させちゃう。ときにはテキトーさんのメンタリティーでもいいのかな。一番力が抜けた絵本でした。ちなみに、テキトーさんの職場の名前は「MA—INDES」。 ■ ■ ■

あの頃怖かった『じくこのそうべえ』もリベンジできました。実は上方落語が原案になっていて、軽快な関西弁で笑いがメインの絵本でした。知らなかった……いっか、声に出して読むつもり。本学図書館でも絵本の所蔵があります。今になって読む絵本は懐古から新しい発見までありました。なんか重くなってきたなと感じたとき、絵本はいかがでしょうか。



北海学園大学附属図書館報 図書館だより

2023年4月1日発行 第45巻1号(通巻228号)

編集・発行 / 北海学園大学附属図書館

062-8605 札幌市豊平区旭町4丁目1-40 Tel 011-841-1161

<https://library.hgu.jp>